

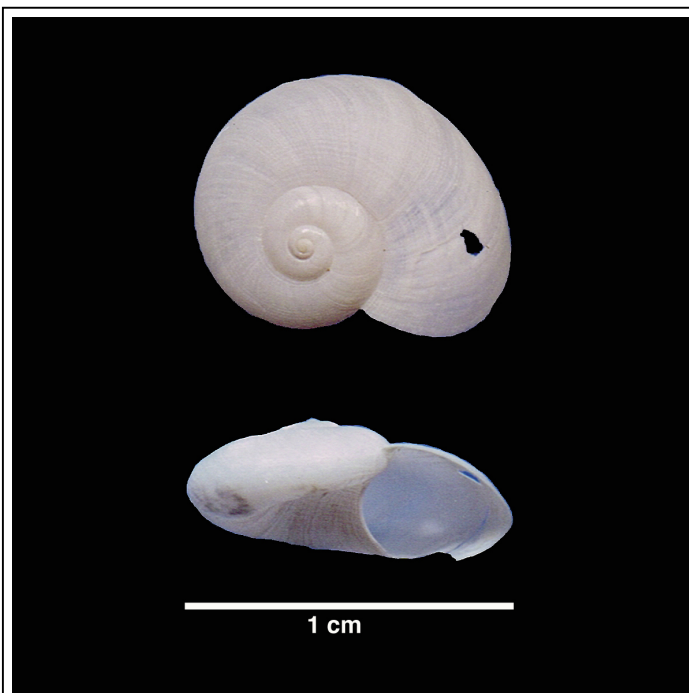
イソマイマイ *Sigaretornus* aff. *planus* (A. Adams)

【選定理由】

本種は内湾の潮下帯砂泥地にすむ。内湾域の潮下帯の環境は上部の干潟の破壊や浚渫、貧酸素水塊の発生、水質汚濁などで急速に悪化していて、この生息帯の貝類相が著しく単純化している。本種も、日間賀島南沖水深 2-10 m の砂泥底より死殻をわずかに採集したが、生貝は採集できていない (木村, 1996)。その後の調査でも死殻は非常に稀に採集されたが、生貝は採集されていない。絶滅の可能性が非常に高い種であると評価された。

【形態】

殻径約 10 mm の円盤形で、殻は薄く壊れやすい。殻表には細かい螺肋が多数密に並ぶ。臍孔は広い。従来本種の学名とされていた *S. planus* は、フィリピン～香港産であり、沖縄島産の近似種に相当する可能性が高く、九州以北の個体は沖縄島以南のものよりはるかに大型で、明瞭な周辺角を持つ点で別種と考えられ、未記載種であるかもしれない (福田, 2012)。



南知多町日間賀島南沖水深 3m(ドレッジ), 1994 年 12 月 12 日, 木村昭一採集(死殻)

【分布の概要】

【県内の分布】

県内では生貝が採集されていない。死殻の採集例も非常に少ない。

【世界及び国内の分布】

日本固有種の可能性もある。房総・能登半島～九州に分布する (福田, 2012)。

【生息地の環境／生態的特性】

【選定理由】の項参照。

【現在の生息状況／減少の要因】

上述したように、県内では生貝を採集できていない。死殻でさえ稀である。危機的な生息状況といえる。

【保全上の留意点】

内湾の潮下帯の環境を保全する。干潟の保全や、内湾域の水質の富栄養化を防止することが不可欠である。

【引用文献】

- 福田 宏, 2012. イソマイマイ, p. 42. in: 日本ベントス学会 (編) 干潟の絶滅危惧動物図鑑 - 海岸ベントスのレッドデータブック, 285pp. 東海大学出版会, 秦野.  
木村昭一, 1996. ドレッジによって採集された日間賀島南部海域の底生動物. 研究彙報(第 35 報): 3-19. 全国高等学校水産教育研究会.

(木村昭一)